

2013年4月吉日  
多チャンネル放送研究所  
所長 音 好宏

「多チャンネル視聴実態調査2012」調査報告書

「団塊ジュニアはテレビをどう見ているか～多チャンネル視聴実態調査 2012～」  
報告書、刊行について

多チャンネル放送研究所(所長:音 好宏)では、このほど「団塊ジュニアはテレビをどう見ているか～多チャンネル視聴実態調査 2012～」報告書を刊行いたしました。

当研究所では、2008年の設立以来衛星放送協会会員事業者を対象とした「多チャンネル放送実態調査」を4回実施して参りましたが、視聴者利用にフォーカスした視聴実態調査も今回で3回目となります。一昨年の「多チャンネル時代のテレビの見方～多チャンネル視聴実態調査2010～」、昨年の「大学生はテレビをどう見ているか-将来ターゲットの現状分析～多チャンネル視聴実態調査2011～」に引き続き、本年度の調査では、特に団塊ジュニアと多チャンネル放送という視点でグループインタビューと定量調査を実施し、多チャンネル放送の視聴実態に立体的に迫りました。

今回の団塊ジュニア世代に対する調査、および昨年実施した大学生を対象にした調査から多チャンネル放送における課題も浮かび上がってきます。例えば、団塊ジュニア世代の消費の在り方を象徴するものの一つは、関心のないもの、無駄なものへの支出に対する厳しい態度として表われています。

この結果、従来の様な「これだけの価格でこれだけ多くのチャンネルが視聴できます」というアプローチではなく、「あなたが関心を持つこのようなコンテンツもこのようなコンテンツも見ることができて、この価格」といった、人々の個々の関心に訴求する細かなアプローチが有効になるのでは、という構図が浮き上がってきます。

これは今回調査で明らかになったほんの一例にすぎず、多チャンネル放送研究所としては引き続き、ユーザーに対する調査分析を進めて、多チャンネル放送の普及拡大に貢献していきたいと考えます。

なお、本報告書は当研究所のホームページ(<http://www.eiseihoso.org/labo/release.html>)にも掲載してありますので適宜ご活用下さい。

以上